

## 町民待望の文化会館

文化会館アエル(以下、アエル)がオープンしたのは平成4年3月28日。当時の菊川町が検討を重ね、2年5カ月の歳月をかけ、建築されました。当時の広報菊川でも大きく取り上げられており、町民

### 本格的な演劇ホール

最大の関心事であったことがうかがえます。(写真1・2)。初代館長である故・赤堀庄太郎さんは、広報菊川の中で「だれもが楽しくふれあい、落ち着いた雰囲気の中で鑑賞できる会館にしたいですね。(中略)町民が夢を託し、生涯学習のよりどころとなるよう住民、企業、行政の三者が一体となって活用していただければうれしいですね」と思いと意気込みを話しています。そして、3月27日のオープニングセレ

### 数多くの公演を実施

30年の間に行われた公演は、演劇はもちろん、コンサートやライブ、お笑いショーなど多岐にわたります。著名なアーティストだけでなく、市民が日頃の成果を発表する場や、新しいことに挑戦する場所としても、大きな役割を果たしてきました。また、市の産業祭や成人式といった大きなイベントや学校行事の会場としても利用され、市民が集まる身近な施設でもあります(写真4・5)。

数多くの公演を実施

最大の関心事であったことがうかがえます。(写真1・2)。初代館長である故・赤堀庄太郎さんは、広報菊川の中で「だれもが楽しくふれあい、落ち着いた雰囲気の中で鑑賞できる会館にしたいですね。(中略)町民が夢を託し、生涯学習のよりどころとなるよう住民、企業、行政の三者が一体となって活用していただければうれしいですね」と思いと意気込みを話しています。そして、3月27日のオープニングセレ

アエルの最大の特徴は、自治体が管理するホールとしては珍しい、本格的な演劇ホールであることです。当時各地に計画中のホールの中でも特徴を出すために、菊川市出身で、三島由紀夫の戯曲などを手掛けた舞台演出家、故・松浦竹夫氏(テアトロ海主宰)の協力で演劇ホールとして設計されました。大ホールの舞台は、中央の回り舞台や本花道といった設備を備え、奥行きや高さも十分にあります。最大1,201人収容可能な客席は、馬蹄型(ばていがた)の3層構造になっていて、どの席からでも役者の表情が良く見えるようになっていきます(写真3)。また、コンサートにも対応

30年の間に行われた公演は、演劇はもちろん、コンサートやライブ、お笑いショーなど多岐にわたります。著名なアーティストだけでなく、市民が日頃の成果を発表する場や、新しいことに挑戦する場所としても、大きな役割を果たしてきました。また、市の産業祭や成人式といった大きなイベントや学校行事の会場としても利用され、市民が集まる身近な施設でもあります(写真4・5)。



1



2



3



4



5



昨年5月、先生を偲び、先生の研究室に残されていた鍵盤ハーモニカや数々の写真がアエルの展示ロビーに展示されました。

## 初代館長・赤堀庄太郎先生



文化会館アエルの初代館長は、三沢出身の故・赤堀庄太郎さんでした。赤堀さんは、音楽教員として40年間、音楽の楽しさを子どもたちに伝えてきました。その傍ら、オルガンや鍵盤ハーモニカなど、様々な教育楽器を楽器メーカーと共に開発してきました。中でも鍵盤ハーモニカは、赤堀先生が日本中に広めるため、当時全国各地を回ったそうです。そのかきもあり、今では小学校の教材として全国的に普及した楽器となりました。

平成4年からは、静岡県演奏家協会の会長も務められ、菊川から芸術文化の発信にも大きく貢献されました。館長の職を退任された後も、アエルのサポーターとして、積極的にアエルの自主事業のお手伝いをしてくださいました。